



「なにか変」から

「なるほど」へ

金田 由美子

(ケアセンター成瀬・職員)

私が初めて「三好春樹」という名前を聞いたのは、10年前の4月、勤めはじめた特別養護老人ホームでした。ちょうど『生活リハビリ講座』の第Ⅱ期授業の始まったときで、主任と男性職員が受講していました。他の職員は研修の時間に、その2人から講座の内容を聞かせてもらっておりましたが、なかなかあの講座の雰囲気と、三好流の言い回しの妙は、伝え切れないものがありました。(このことは、翌年私が講座に出てつくづく感じたことでした。)その後、他の職員の行く研修の講師として、何度か三好さんの名前を聞くようになり、私も一度は行ってみたいと思っておりましたが、新人の私には当分順番が回ってきそうもありませんでした。

ところが、思いもかけぬことから、遠かった三好さんが身近になりました。老人病院に勤務していた頃の同僚が、生活クラブ生協に就職し、高齢化社会に向かったのプランナーとして、デイサービス事業を始めるに至ったのです。その人は下山名月。そして彼女がアドバイザーとしてお願いしたのが、三好さんであったわけです。

彼女から一緒に仕事をしないかと誘われて、三好さんにも紹介されました。何となく「高名な先生」というイメージを勝手に作りあげていた私には、とても優しく気さくな方に思えました。現在の職場での疑問などお話しすると、「あなた、そんなにいろんなこと考えているんじゃない、職場では浮いているでしょう。いっそ辞めて一緒にやりましょうよ」優

しく気さくなうえに、妙にくすぐり上手で、そそのかし上手な方でありました。こうして、翌年「生活リハビリクラブの金田」になりました。

何から何まで手探りでしたが、老人病院時代に「なにか変」と感じたことと、生活リハビリ講座で「なるほど」と感じたことを結びつけて、さらに私たち独自の「なるほど」にしていきました。「寝たきり」だった人が、再び元気な笑顔を取り戻し、痴呆の人がそれなりのポジションで落ち着き、特浴槽もないのにどんな人でも普通に風呂に入り、田舎のばっちゃんも、都会のインテリ紳士も、皆仲良く楽しい雰囲気の一つになれる…。そんなデイサービスができあがりました。それを支えてくださっていたのが、三好さんでした。

一カ月に一度の「生活リハビリ体操の日」に、それまでのひと月の成果や疑問をお話し、一緒に喜んでもらったり適切なアドバイスをいただいたりの一つひとつが、私たちの栄養剤・活性剤でした。こうやって「生活リハビリクラブの金田」は、育ててもらいました。まさに私の生みの親であり、育ての親でもあります。

いい時代に、いい仕事に出会い、いい指導者に恵まれました。あちこちで話をしたり、文を書いたりしていることに、気恥ずかしさを感じてはおりますが、私に蒔いてもらった種は私が育て、少しでも他に蒔けるようにすることが、恩返しかな…などとこの文を書きながらあらためて思っている次第です。